

科 目 名	農業と情報	単 位 数	2 単位	学 科 ・ 学 年	環境土木 科	2 年																																																
使用教科書	農業と情報	実教出版	副 教 材 等																																																			
学 習 目 標	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業に関する情報を主体的に活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。																																																					
学 習 評 価	○ 次の三つの観点に基づき、学習内容のまとまり（定期考査までを学習のひとまとまり）ごとに下の評価規準により評価を行い、学年末に5段階の評定に総括する。 <table><tr><td>①知識・技能</td><td colspan="5">課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の情報などを踏まえて発言・伝達できる能力</td></tr><tr><td>②思考・判断・表現</td><td colspan="5">情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解と、情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解</td></tr><tr><td>③主体的に学習に取り組む態度</td><td colspan="5">社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルや必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度</td></tr></table>  <table><tr><td>評価方法\観点</td><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>学習状況観察</td><td>—</td><td>—</td><td>◎</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>課題プリント</td><td>○</td><td>◎</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>課題成果</td><td>—</td><td>◎</td><td>○</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>テスト</td><td>◎</td><td>◎</td><td>—</td><td colspan="2">確認テスト・定期考査</td></tr></table> ※表中の◎は観点の中でより重視するところである。 ○担当教員は2名でチームティーチング形式で実施する予定である。各操作が中心となるが、不明な点があれば、担当の教員に質問を繰り返すことで、知識と技術を身に付けていくこと。						①知識・技能	課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の情報などを踏まえて発言・伝達できる能力					②思考・判断・表現	情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解と、情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解					③主体的に学習に取り組む態度	社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルや必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度					評価方法\観点	①	②	③			学習状況観察	—	—	◎			課題プリント	○	◎	○			課題成果	—	◎	○			テスト	◎	◎	—	確認テスト・定期考査	
①知識・技能	課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の情報などを踏まえて発言・伝達できる能力																																																					
②思考・判断・表現	情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解と、情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解																																																					
③主体的に学習に取り組む態度	社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルや必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度																																																					
評価方法\観点	①	②	③																																																			
学習状況観察	—	—	◎																																																			
課題プリント	○	◎	○																																																			
課題成果	—	◎	○																																																			
テスト	◎	◎	—	確認テスト・定期考査																																																		
履 修 上 注 意	○授業教室はGoogle chrome bookを使用、またはパソコン教室で実施する。パソコン教室は、全員が使用するためマナーを守ること。 ○google chrome bookは、生徒自身のアカウントを使用するため、中学時のgoogleアカウントとパスワードは大切に保管しておくようにすること。 ○分からないところやパソコンの不具合などがあれば、すぐに担当の教員へ連絡すること。 ○教員の許可なく、Google chrome bookやパソコン室のパソコンの設定を変えないこと。 ○使用するGoogle chrome bookやパソコン室の座席位置などは、あらかじめ指定するので教員の許可なく使用または移動しないこと。																																																					

学期	月	学 習 内 容	時 数	学 習 の ね ら い	学 習 活 動 (評 価 方 法)
1	4	第1章 私たちの生活と農業の情報化 1 情報社会における私たちの生活 2 情報とメディア 3 情報社会とモラル	4	○情報社会の光の面と陰の面を理解することで、利用する人間のマナーやモラルについて学習する。	○情報を簡単に送受できる社会において、日頃どのような考え方や態度を身に付けなければならないかを、プリントや身近な事柄から理解する。
	5 6 7	第3章 コミュニケーションと情報デザイン 第3節 データの集計と視覚化 表計算ソフトの利用 1 表計算ソフトの概要 2 表作成と表計算 3 グラフの作成 4 表計算ソフトの応用 検定内容に即した内容	20	○表計算ソフトは「スプレッドシート」または「エクセル」を使用し、基本的な入力方法を身に付け、簡単な数式、関数の使い方からグラフまでの操作を身に付け、検定を視野に入れた内容も学習する。	○中学時の復習を兼ねて振り返りを行い、改めて理解する。課題プリントの内容がしっかりとできるような知識と技術を身に付ける。 ※学習状況観察 ※1学期期末考査
2	9 10	第3章 コミュニケーションと情報デザイン 第6節 プレゼンテーション プレゼンテーションソフトの利用 1 プレゼンテーションソフトの概要 2 プレゼンテーションソフトの基本操作 3 プレゼンテーションソフトの応用	13	○プレゼンテーションソフトは「スライド」または「パワーポイント」を使用し、基本的な操作方法を身近な話題やできごとを題材にしたプレゼンテーションを作成することで身に付ける。	○作成したプレゼンテーションは授業の節目にそれぞれ全体の前で発表してもらう。その中で他人に伝えることの難しさや技術などを学習する。
	11 12	第3章 コミュニケーションと情報デザイン 第4節 データベースシステムとオープンデータ データベースソフトウェアの利用 1 データベースソフトウェアの概要 2 オープンデータの利用	18	○ソフトは「AIテキストマイニング」を使用。データの分析する前に必要となるデータの形式に関する知識やデータの収集方法種類について理解する。数学的なデータの分析の基礎を理解し、ソフトウェアなどを使用してデータ処理や分析を身に付ける。	○作成したデータを基にデータの分析方法や得られる結果からどのような問題点、課題点があるか考えさせる。 ※学習状況観察 ※2学期期末考査
3	1 2 3	プログラミング 1 アルゴリズム 2 プログラミング言語とは 3 プログラミング方法	15	○ソフトは「Colabory」pythonを使用。問題の解法をアルゴリズムを用いて表現する方法を身に付ける。プログラミング言語の実行のしくみを身に付ける。簡単なプログラミングの作成を通してアルゴリズムや言語を身に付ける。処理手順の自動実行の有用性を身に付ける。	○表計算ソフトウェアでの簡単なプログラムの作成を通してアルゴリズムの基本を理解させる。フィボッチ数列のアルゴリズムとプログラムの作成を通して適切なアルゴリズムの必要性について考えさせる。 ※学習状況観察 ※学年末考査
			70		